

平成28年度の三木市教育委員会の事務の
管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書

(概要版)

三木市教育委員会

目 次

I	教育委員会の活動状況	P 1
II	教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額	P 2
III	施策の点検・評価	
1	子ども一人一人の力を伸ばします	P 3
2	魅力ある学校園づくりを進めます	P 5
3	人と人とのつながりを大切にする生涯学習を進めます	P 7
4	その他の取組	P 9
5	市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行 している事務	P 10
IV	外部評価者の評価	P 11
	[資料] 第2期三木市教育振興基本計画の数値目標(抜粋)	P 11

はじめに

平成28年度は、教育振興のための継続的な施策の柱として、「第2期三木市教育振興基本計画」を策定しました。平成27年4月に施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づき、平成28年3月に「三木市教育大綱」を策定したことを踏まえ、「第1期三木市教育振興基本計画」の見直しを行い、これまでの成果を継承しつつ、「三木市教育大綱」と連動させ、施策の実効性をより高めるとともに、0歳から15歳までの切れ目のない教育・保育を推進し、未来を担う子どもたちを育成していくことを大きな特徴としています。また、基本理念である「ふるさと三木を誇りとし 自立心あふれる人材の育成」のもと、“「心豊かに 元気よく 学び続ける」ひとづくり”を教育目標に掲げ、学校教育や社会教育に取り組みました。

教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会が1年間に行った施策を自ら振り返り、評価するものです。

この概要版は、平成28年度に重点的に取り組んだ施策についての点検・評価の概要をお示しするものです。

この点検・評価を通して、現在実施している施策や事務事業における成果と課題を整理するとともに、見直しと改善を行い、よりの確で効果的な施策を実施していくことで、三木市の教育の一層の充実と発展に資することができるよう今後も努力してまいります。

なお、各施策の詳細については、本編をご覧ください。

平成29年9月

三木市教育委員会

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

役 職	氏 名	委員任期	備 考
委員長	里見 俊實	平成 17 年 9 月 26 日～ 平成 31 年 9 月 30 日	委員長は平成 22 年 10 月から
委員長 職務代行者	井口 徹	平成 22 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 9 月 30 日	委員長職務代行者は平成 28 年 10 月から
委員	石井 ひろ美	平成 28 年 1 月 1 日～ 平成 31 年 12 月 31 日	
委員	浦崎 秀一	平成 28 年 10 月 1 日～ 平成 32 年 9 月 30 日	
委員 (教育長)	松本 明紀	平成 21 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日	

2 教育委員会の開催状況

平成 28 年度は、教育委員会会議として、定例会を 12 回、臨時会を 4 回開催し、議案 27 件、報告 10 件を審議したほか、22 件について協議を行いました。

3 総合教育会議

平成 28 年度の総合教育会議では、平成 28 年 3 月に策定された教育大綱の基本理念を基に、小学校、中学校の現状から、小学校は学習習慣、生活習慣の定着を基盤とした学力の向上、中学校では社会性等を育成するため、一定規模の集団を確保する学校環境整備が課題として挙げられました。このため、中学校における学校環境のあり方を検討する組織、役割等については、「学校環境あり方検討会議」の設置が決定されました。

4 教育委員のその他の活動状況等

幼稚園、認定こども園、小学校、中学校及び特別支援学校の入園・入学式、修了・卒業式及び運動会等の学校園の事業に出席したほか、成人式、スポーツ功労賞表彰式、みつきいふれあいマラソン等の文化・スポーツ事業などに出席しました。

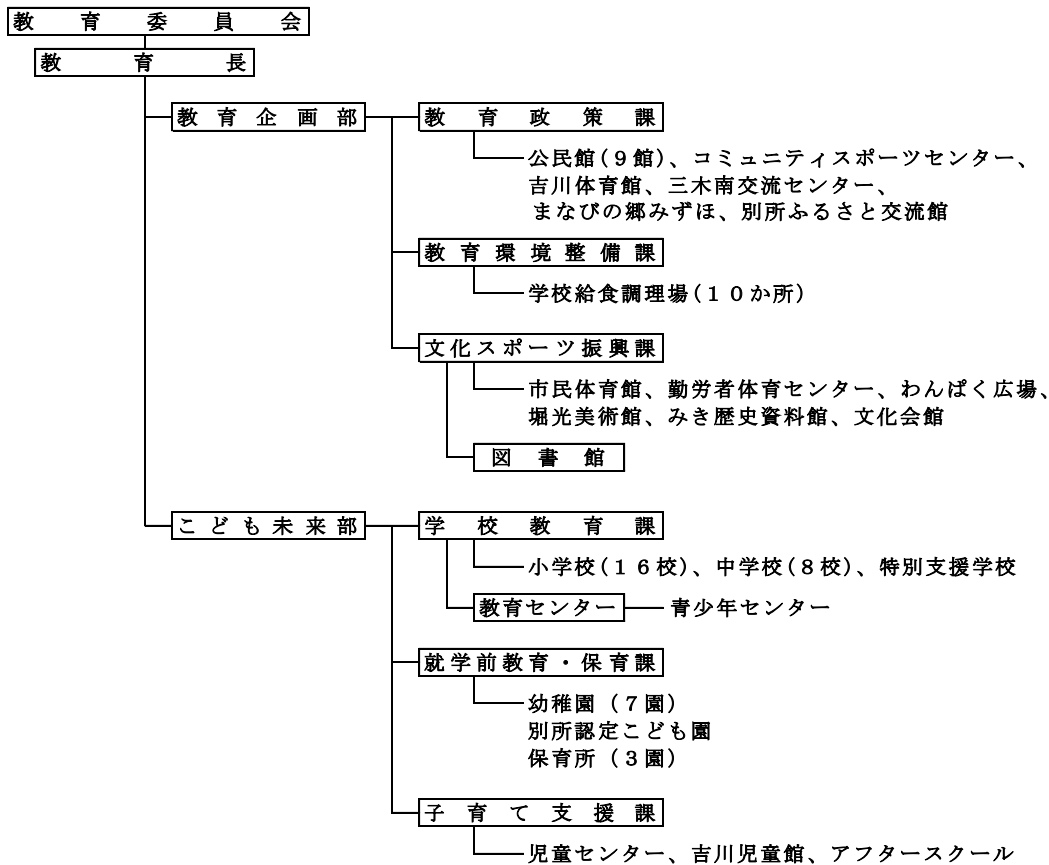
さらに、オープンスクール等が実施されたときには、学校を訪問し、教育現場の実態の把握に努めました。

また、播磨東地区、兵庫県及び近畿都市教育委員会連合会等が主催する研修会等に参加しました。

II 教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額

1 教育委員会事務局の組織及び職員数（関係施設を含む。）

(1) 教育委員会事務局組織図（平成28年4月1日現在）



(2) 教育委員会事務局の職員数

(各年度3月31日現在)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減
正 職 員	91 人	102 人	△11 人
非 常 勤 職 員	283 人	245 人	38 人
合 計	374 人	347 人	27 人

2 教育委員会事務局の主要業務

教育委員会事務局は、教育企画部とこども未来部の2部制で業務を進めています。

教育企画部には、教育政策課、教育環境整備課、文化スポーツ振興課のほか、図書館などの施設を配置しています。

こども未来部には、学校教育課、就学前教育・保育課、子育て支援課のほか、教育センターなどの施設を配置しています。

教育委員会事務局の平成28年度の主な業務は、本編をご覧ください。

3 教育委員会所管業務の歳出決算見込額

(単位：円)

款	平成28年度 (決算見込額)	平成27年度 (決算額)	増減
教育費	3,326,809,336	3,402,358,316	△75,548,980
民生費	4,197,779,116	4,072,887,963	124,891,153
総務費	45,926,276	36,931,254	8,995,013
合計	7,570,514,728	7,512,177,533	58,337,195

Ⅲ 施策の点検・評価

1 子ども一人一人の力を伸ばします

◇ 取組の目的

就学前教育・保育の充実、そして一人一人の状況に応じた学力、心、体力の育成を通じて、子どもたちの個性と能力を伸ばすことを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 就学前教育・保育の推進
(2) 「確かな学力」の向上
(3) グローバルな人材を育成する教育の推進
(4) 「豊かな心」の育成
(5) 「健やかな体」の育成
(6) 特別支援教育の充実

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学前教育・保育の推進

ア 幼保一体化計画に基づく保育者の質の向上のための研修事業【就学前教育・保育課】(補助執行)

「三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラム」に基づき、教育・保育の質の向上をめざし、保育者合同研修会と交流研修会を実施しました。

イ 特定教育・保育施設の評価及び監査【就学前教育・保育課】(補助執行)

市内の特定教育・保育施設の教育・保育の質の向上及び運営の適正化を図るために、市独自に第三者による評価及び監査を実施しました。

ウ 保育事業【就学前教育・保育課】（補助執行）

平成28年度に、認定こども園12園を開園し、教育・保育の質の向上と運営の適正化を図りました。

(2) 「確かな学力」の向上

ア 基礎学力の定着と教育の質の向上【学校教育課】

学力向上方策として、「三木市学力向上サポート事業」を実施し、推進校の実態に応じた学力向上に取り組みました。

また、家庭学習啓発資料（みきっ子家庭学習ガイド）を配布し、家庭と連携しながら学習習慣及び生活習慣の改善に取り組みました。

イ 三木市小中連携教育推進事業【学校教育課】

小中連携三木モデルをもとに各中学校区で小中連携推進委員会を組織し、子どもの不安を取り除き、学びの楽しさあふれる学校づくりをめざすために小中連携教育の取組を年間計画に位置づけ、小中学校で学習指導、生徒指導等で緊密な連携を図りました。

(3) グローバルな人材を育成する教育の推進

話せる英語教育の推進【学校教育課】

小学校低学年から英語教育に取り組むなかで、平成28年度よりすべての小学校が文部科学大臣から教育課程特例校の指定を受け、発達段階に応じた外国語活動の授業を行いました。

(4) 「豊かな心」の育成

ア 生徒指導体制の確立【学校教育課】

児童生徒のいじめ等の問題行動の未然防止と早期対応のため、教育相談体制の充実を含めた生徒指導体制の確立に努めました。

イ 不登校総合対策推進事業【学校教育課】

平成28年度は、各校で「学校I K O K Aマニュアル」を活用し、早期対応の必要性・重要性を再認識し、別室登校の対応、家庭訪問など組織的な取組を続けました。

(5) 「健やかな体」の育成

学校給食の充実【教育環境整備課】

1月の給食週間では、「食で関西再発見!」というテーマで関西の特産品や郷土料理を給食に取り入れました。

(6) 特別支援教育の充実

ア 学校園・各機関との連携を踏まえた特別支援教育の推進【教育センター】

就学前教育保育施設と小学校間及び小、中学校間において継続した支援が子どもの実態や特性に応じて適切に行えるように、子どもの実態把握や具体的な支援のあり方等について、保護者及び学校園の相談に応じました。

イ 特別支援教育指導補助員の配置【学校教育課】

平成28年度は、小学校13校に36人、中学校7校に11人を配置し、発達障害や様々な障がいを持つ児童生徒の学習支援、生活支援を行いました。

ウ 特別支援教育研修会【学校教育課】

全教職員が、特別支援教育の理解、啓発を推進するための研修会を開催し、児童生徒一人一人の状態に応じた教育的配慮が行えるよう、障害特性等を正しく理解し実践するための取組を行いました。

2 魅力ある学校園づくりを進めます

◇ 取組の目的

教職員の資質の向上や学校園情報の発信、また、安全・安心な教育環境の整備を通じて、地域社会の中でより積極的な役割を果たしていける学校園づくりを進めます。

◇ 取組の項目

(1) 学校の組織力の向上
(2) 教職員の資質及び指導力の向上
(3) 開かれた学校園づくりの推進
(4) 安全・安心な教育環境の整備
(5) 小規模校の良さを生かした学校規模に応じた教育環境の充実

◇ 主な点検・評価項目

(1) 学校の組織力の向上

学校の組織力の向上【学校教育課】

組織のリーダーを育成するため、学校経営研修会及び専門研修講座を開催しました。

各校においては、教職員に対して人事評価・育成システムに基づく面談を実施し、協働体制の確立を図りました。

また、事務職員が教職員の勤務管理、施設設備管理をはじめとした業務改善の取組を通じて、学校運営の活性化に一定の役割を果たしました。

(2) 教職員の資質及び指導力の向上

専門研修講座・校務システム研修の開催【教育センター】

園児児童生徒一人一人の可能性を伸ばし活力ある人材を育てるために、教職員等の研修と実践の統合を図り、教師力と学校力を向上させることを目的とし、3つの分野で、27回の講座を実施しました。

(3) 開かれた学校園づくりの推進

学校園の情報発信の推進【教育センター】

すべての学校園において特色ある Web ページが運営されており、平成28年度の学校園全体の1日の平均更新ページ数は31ページで、平成27年度と比べ3ページ減少しましたが、今後も学校園の情報の開示を通じた学校運営の一層の活性化に向けて、Web ページを通じた情報発信に取り組めます。

(4) 安全・安心な教育環境の整備

ア 安全・安心な学校園をめざして【学校教育課・教育政策課】

三木市教職員危機管理ハンドブックは全章を改訂し、教職員が危機管理意識を高め、組織的に安全・安心な学校園づくりが進められるよう、各学校園に配付しました。

さらに、教育委員会では、学校校区を7ブロックに別け、学校安全指導員（警察OB）を配置し、学校園内及び学校園区内における園児、児童生徒及び教職員等の安全確保を図りました。

イ 学校施設等の整備の推進【教育環境整備課】

平成28年度は、地震時に児童生徒の安全を確保するため屋内運動場の照明器具や窓ガラスなどの非構造部材の耐震化と、児童生徒が快適な学校生活を過ごせるようトイレの洋式化を実施しました。

(5) 小規模校の良さを生かした学校規模に応じた教育環境の充実

ア 小規模校のメリットを生かした教育活動の推進【学校教育課】

小中学校間でインターネット会議システムを活用して、合同体育祭

に向けた交流を行ったり、人権研修を複数の学校が合同で行なったりしました。

イ 学校の適正規模・配置の検討【学校教育課】

総合教育会議において、三木市の学校の適正規模・配置について議論がなされ、「小学校は統廃合を行わない、中学校は志染中学校、星陽中学校について平成32年度以降の配置を検討する」こととなりました。検討にあたっては、有識者、保護者、地域の方々からなる「三木市学校環境あり方検討会議」を設置し、学校環境整備についての実施方針案の作成に向けた議論を始めました。

3 人と人とのつながりを大切にする生涯学習を進めます

◇ 取組の目的

地域や家庭教育の支援、人権教育の推進、市の特色を生かした文化・スポーツ振興事業を通じて、すべての人が尊重され、心豊かに学び続けることのできる社会づくりを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進
(2) 地域・家庭の教育力の向上
(3) 学びたいときに学べる環境の整備
(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化
(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実
(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成
(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

◇ 主な点検・評価項目

(1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進

ア 市民研修の充実【人権推進課】

住民学習について、市立公民館を拠点に積極的に啓発を行い、4,531人の参加がありました。しかし、平成28年度に実施した「三木市人権に関する市民意識調査」の結果では、若い世代ほど参加率が低くなる傾向になっていましたので、若年層に向けた啓発活動をより一層推進していく必要があります。

イ 男女共同参画の推進【人権推進課】

年3回の情報誌の発行や、男女共同参画センターや各市立公民館等において男女共同参画に関する各種の講座及びセミナーを開催しました。男女平等と性別役割分担意識の解消に向けた講座として22回開催し、1,292人が受講しました。

(2) 地域・家庭の教育力の向上

ア 家庭教育推進事業【市民協働課】

市内の10公民館で、家庭の役割についての認識を深める学習、親子の絆を強める体験活動、子育て中の親の悩みを相談し交流を深めるサロンの開催など実施しました。また、参加者の拡大を図るため、参加者のニーズに対応し、魅力ある講座を実施しました。

イ 青少年補導委員活動【青少年センター】

青少年の健全育成及び非行防止等のために、151人の補導委員が街頭補導活動、青少年を取り巻く有害な環境の是正に関する啓発活動を推進しました。

(3) 学びたいときに学べる環境の整備

高齢者大学、同大学院の運営【市民協働課】

平成28年度の学生数は、高齢者大学が187人、高齢者大学大学院が42人でした。

大学院においては、地域活動につながる体験型の講座として、みつきい夏まつりでは、翌日の清掃ボランティアとして99人、小中学生を対象としたまなびの郷みずほ交流キャンプでは、講師や運営補助として51人が活動しました。

(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化

ア 公民館における学習機会の充実【市民協働課】

市内10公民館において、乳幼児学級、女性セミナー、高齢者教室など、ライフステージに応じた講座を開催することにより、受講生同士、地域間や世代間で交流と情報交換を図るなど、仲間づくりや地域づくりを深める場を提供しました。

(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実

乳幼児から高齢者まで、すべての市民が便利に利用できる図書館づくりに努めました。

(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成

ア 歴史・美術の杜構想の推進【文化スポーツ振興課】

三木城跡や城下町を含む付城跡群で囲まれた区域全体をフィールドミュージアムに見立てる「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」の中核施設として、平成28年5月5日にみき歴史資料館を開館しました。

イ 文化・芸術団体の活動支援【文化スポーツ振興課】

三木市の文化芸術の振興と普及を図るため、平成28年度に創設した文化芸術賞については、3人の優秀な文化芸術活動に対し、文化芸術奨励賞を授与しました。

(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

ア 「三木山総合公園総合体育館」の建設工事に着手【文化スポーツ振興課】

三木市の新たなスポーツ拠点となる総合体育館の建設工事に着手しました。

平成29年7月末までに工事を完了し、9月末までに備品の搬入を行い、平成29年10月に開館予定です。

イ ゴルフの普及・発展【文化スポーツ振興課】

「三木の特色を生かしたスポーツの振興」として、三木市ゴルフ協会等との連携により、市民ゴルフ大会、企業対抗ゴルフ大会を開催しました。

平成28年度は、三木市PR事業として、プロとラウンドできる市民ゴルフチャンピオン大会や、第1回三木市レディースゴルフトーナメントを開催しました。

4 その他の取組

◇ 取組の目的

学校教育事業を補助する諸活動を通じて、子ども達の教育のより一層の充実を図ることを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 就学援助・就園奨励
(2) 通学（園）支援事業
(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業
(4) 奨学資金給付事業

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学援助・就園奨励【学校教育課、就学前教育・保育課】

経済的な理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学に係る費用の一部を援助することにより、義務教育の円滑な実施に努めました。

(2) 通学（園）支援事業【教育環境整備課、就学前教育・保育課】

学校園の統廃合により、遠距離通学（園）することとなった園児児童生徒及び三木特別支援学校に通学する児童生徒を対象に、スクールバスの運行又は通学補助金の交付という方法により通学支援を行いました。

(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業【教育環境整備課】

兵庫県の「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」により、平成27年10月から自転車の利用者に自転車損害賠償保険の加入が義務付けられ、教育委員会では中学校の自転車通学者に対し自転車通学者保険補助金を交付し、対象者の保護者負担を軽減することにより、全ての対象者の保険加入を促進しました。

(4) 奨学資金給付事業【教育環境整備課】

経済的理由で高校、大学、専修学校等の学資の支弁が困難な世帯に対し、奨学資金を給付し、教育の振興を図りました。

5 市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行している事務

◇ 取組項目

(1) みきっ子未来応援協議会
(2) 手当給付事業
(3) 地域子ども・子育て支援事業
(4) 要保護児童対策
(5) ひとり親家庭への自立支援
(6) 多世代交流施設整備事業

◇ 主な点検・評価項目

多世代交流施設整備事業【子育て支援課】（補助執行）

子どもから高齢者まで、世代を超えて出会い、触れ合い、元気に「生き生き」と活動しながら生きがいを創造する拠点として、大型遊具や健康器具を設置する多世代交流施設整備事業に着手しました。

IV 外部評価者の評価

京都教育大学教授の竺沙知章氏と、兵庫教育大学教職大学院非常勤講師の廣岡徹氏に、学識者評価を賜りました。評価の詳細については、本編をご覧ください。

〔資料〕第2期三木市教育振興基本計画の数値目標(抜粋)

指 標	項 目	平成28年度	平成29年度	平成32年度
就学前教育・保育施設で希望する園への入園を待つ児童数	希望する園への入園を待つ児童数	168人	37人	0人

指 標	区 分	平成27年度	平成28年度	平成32年度
学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、小学生で1時間以上、中学生で2時間以上勉強している子どもの割合	1時間以上勉強している小学生	58.3%	63.6%	70.0%
	2時間以上勉強している中学生	36.0%	34.5%	50.0%

指 標	項 目	平成27年度	平成28年度	平成32年度
英検を受験する生徒の割合	英検を受験する生徒の割合	15.6%	14.0%	30.0%

指 標	区 分	平成27年度	平成28年度	平成32年度
特別支援教育関係の専門職員の配置	スクールソーシャルワーカー	0人	2人	8人
	学校生活支援教員	3人	3人	4人
	部活動指導員	8人	10人	10人
	教育活動指導員	2人	2人	2人
	特別支援教育指導補助員	34人	47人	47人
	スクールカウンセラー	24人	24人	24人
	計		71人	88人

指 標	項 目	平成27年度	平成28年度	平成32年度
教育センター専門 研修講座への参加	教員1人当た りの参加回数	2.7回	2.8回	3.0回

指 標	項 目	平成27年度	平成28年度	平成32年度
防犯訓練又は危機管理 ハンドブックに基づい た危機管理対応の校内 研修などの実施校数	実施校数	15校	16校	25校

指 標	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学校の洋式トイレの整 備率	小学校	88.4%	89.5%	100%
	中学校	84.4%	97.9%	100%

指 標	項 目	平成27年度	平成28年度	平成32年度
住民学習に参加 する市民の人数	住民学習参加者数	4,376人	4,531人	4,900人

指 標	項 目	平成27年度	平成28年度	平成32年度
生涯学習講座参加人数及び高齢 者大学・大学院 学生数	公民館生涯学習講 座の参加人数	24,406人	24,230人	24,800人
	高齢者大学・大学 院の学生数	237人	229人	270人

指 標	項 目	平成27年度	平成28年度	平成32年度
年間貸出冊数及び 図書館利用者数	市民一人当たりの 年間貸出冊数	11.5冊	12.4冊	12冊
	図書館利用者数	21万人	24.8万人	22万人